

地方の小中高一貫校が目指すグローバル科学教育 夢の翼プロジェクトの実践から

2026年2月21日(土)

日本学術会議フォーラム

学校法人池田学園 池田中学・高等学校

副校長 山崎 巧

(SSH主任 小田 紘史、研修部主任 栗屋 公聡、ICT戦略部主任 谷口 晋介) ¹

話題 1

第IV期SSH事業概要

池田小中高一貫システム(池田モデル) －科学性・国際性・高度化－

研究開発テーマ

「小中高一貫教育における国際的科学教育プログラムの開発」



学校法人池田学園 池田小学・中学・高等学校



【沿革】

昭和61年 学校法人池田学園池田中学校 新設

建学の精神: 21世紀の国際的なリーダー育成

平成3年 学校法人池田学園池田高等学校 開校

平成7年 学校法人池田学園池田小学校 開校

平成17年 スーパーサイエンスハイスクール指定

【規模】

小学校・中学校: 各学年2クラス

高校: 各学年3クラス

全校児童・生徒 約600名

1 小中高のカリキュラム再構築・刷新 探究と授業＋評価

中学校カリキュラムの刷新

中学校サイエンスコミュニケーションプログラム(SCP)

24チームのグループ研究・拡充、科学者等との対話と考察→知識の体系化→プレゼン大会→英語プレゼン大会

2 小中高の研究交流の場の創設 探究と授業＋評価

IKEDA Science Day(小中高課題研究合同発表会)

小中高の日常的な課題研究交流、小中高の職員間の互見授業と研修

3 理系女性育成プログラム「夢の翼プロジェクト」

＋ 業務改善 業務の見える化と公平分担の原則

探究的な学びのシステム(池田モデル)の可視化と共有

IKEDA 学びシステムの見える化

小学校 「探究力を**つかむ**」段階
 中学校 「探究力を**深める**」段階
 高等学校 「探究力を**広げる**」段階

資質能力ベース系統的カリキュラム

- 全学年「課題研究」体制**
 多様な学校設定科目を通して、探究的な資質能力を系統的に育成。
- 「データサイエンス」の系統的展開**
 高度な課題研究に生きて働くIT操作技術と科学倫理の育成 **独自のCM・教材**
- 「国際化教育」の系統的展開**
 課題研究の発表・セッションに生きて働く国際言語能力育成 **独自のCM・教材**

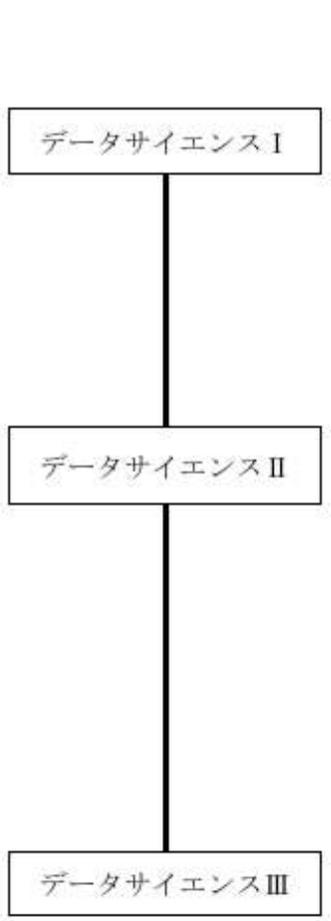
探究力の育成

小 学 校	
探究力をつかむ	[学校設定科目] ・ベーシックサイエンス ・課題研究 [研究活動] ・自由研究(全員)

中 学 校	
探究力を深める	[学校設定科目] ・サイエンスコミュニケーション (課題研究SCP) ・SS基礎 [研究活動] ・自由研究(全員)

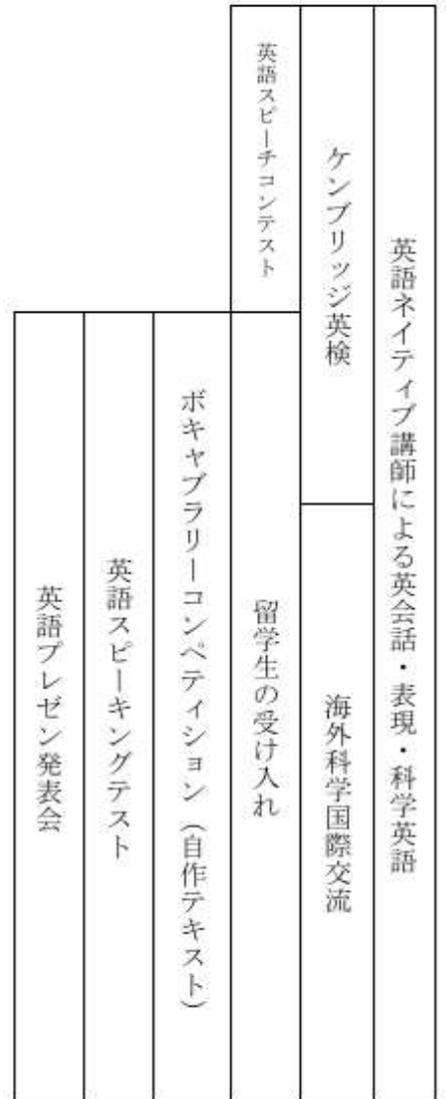
高 等 学 校	
探究力を広げる	[学校設定科目] <u>1年生</u> ・グローバルサイエンスI ・データサイエンス
	<u>2年生</u> ・グローバルサイエンスII ・ソフィア
	<u>全員</u> ・課題研究 ・SSHに関する諸事業

IKEDA データサイエンス



※学校設定科目のなかにカリキュラムとして位置付ける(別紙)

国際性の深化



システム構築の可視化と共有

育成すべき資質・能力

深みのある授業 (ICE I)

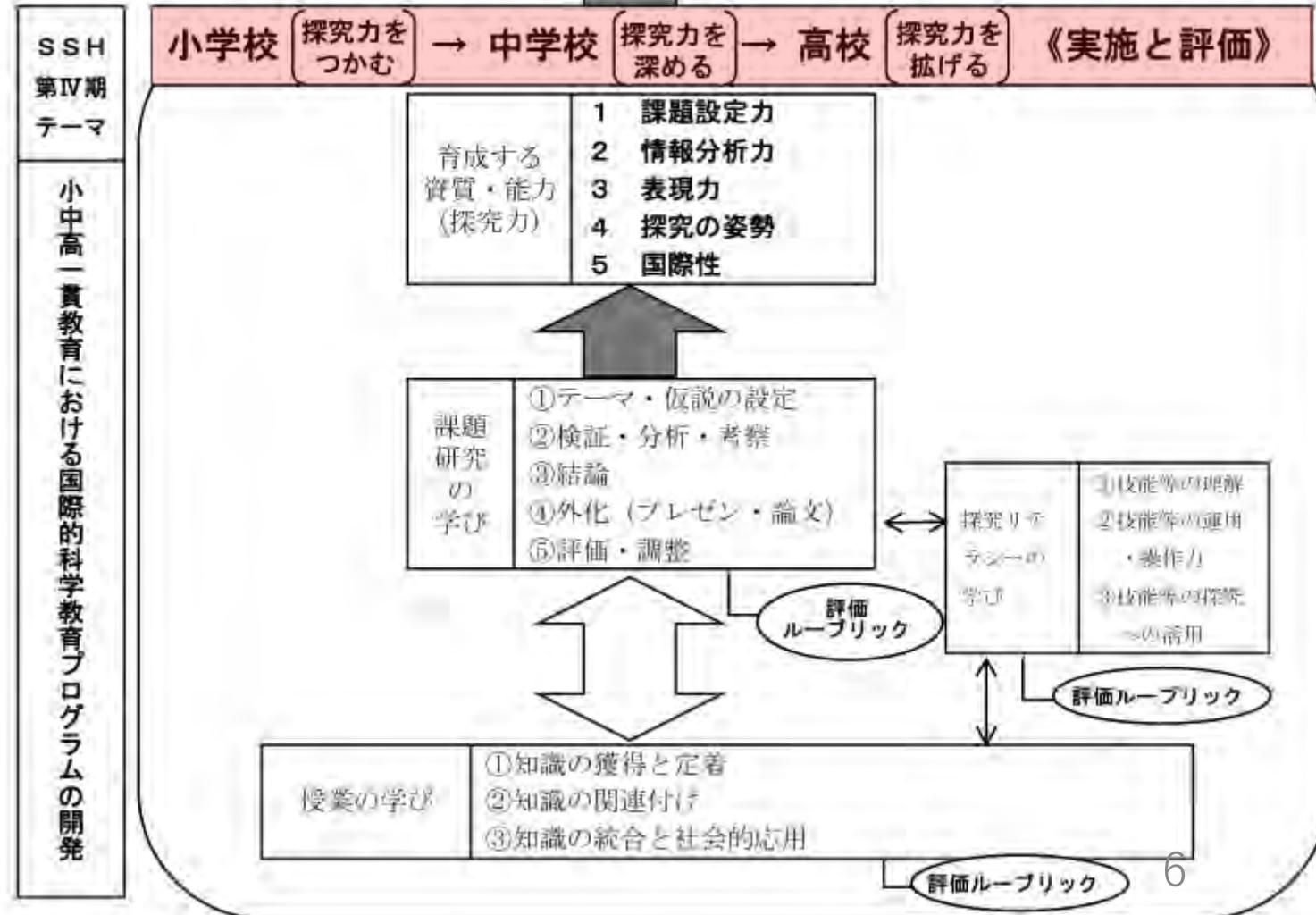
科学的課題研究 (E II)

- 1 課題設定力
- 2 情報分析力
- 3 表現力
- 4 探究の姿勢
- 5 国際性

池田学園 学びの構造～池田 ICE-E モデル～

建学の精神

21世紀の国際的なリーダー育成



成果 主なIV期実績(抜粋) R5-7

令和5年	全国高等学校総合文化祭(地)	文化庁長官賞 2位
	SSH生徒研究発表会(地)	審査員長賞 4位
	高校化学グランドコンテスト	文部科学大臣賞 1位
	台湾国際科学フェア(TISF)(化)	世界3位
令和6年	九州高等学校生徒理科研究発表会(物・生・地)	優秀賞3件
	藤原ナチュラルヒストリー振興財団(生)	最優秀賞(1位)
	つくばScienceEdge2024(地)	探求指向賞 全国2位
	Global Link Singapore2024(地)	出場

成果 主なIV期実績(抜粋) R5-7

令和7年

全国高等学校総合文化祭(化) 奨励賞

バイオ甲子園(生) 準優勝

つくばScienceEdge2025(地) 探求指向賞 全国2位

Global Link Singapore2025(地) Fine Focus Prize

SSH生徒研究発表会(生) 科学技術振興機構理事長賞 2位

日本学生科学賞 県審査(生) 県知事賞・県議会議長賞

九州高校理科学研究発表会(生・地) 最優秀賞・優秀賞

i-y日本ストックホルム青少年水大賞(化) 決勝進出

話題 2

「夢の翼プロジェクト」(理系女性育成 + α)
アンケート・自己評価の結果分析

輝く女性研究者賞(ジュンアシダ賞)表彰式&トークセッション への本校生徒の参加



【受賞者との茶話会の様子】



【受賞者との会話の様子】

【参加生徒の感想】

- ・**トークセッション、茶話会**で、一流の女性研究者と自由に話すことができ、大変楽しかった。
- ・受賞された方も、妊娠・出産を経て、家族にも支えられて、研究を続け、社会的にも活躍されているのを聞き、勇気をもらった。
- ・たくさんの分野と交流することや自分の意見を持つことの必要性を学んだ。

「夢の翼プロジェクト」(理系女性育成プログラム)の構築

R4.12 1年次 模索期～女性研究者の講演、課題研究への指導助言～



女性研究者を複数招聘「女性研究者育成フォーラム」の実施

R5.12 2年次 [I部]中学校各クラスでの女性研究者による講義と質疑
[II部]高1女子との座談会



R6.12 3年次 [I部]中学校各クラスでの女性研究者による講義と質疑
[II部]中3・高1女子との座談会



R7.12 4年次 [I部]外部体験をした先輩による体験プレゼンと質疑
[II部]小学5・6年、中学校各クラスでの女性研究者による講義と質疑
[III部]高1女子、小中希望者との小グループでのサイエンストーク

[I部]外部体験をした高校1年生による全中学生への体験プレゼン

『みらいの扉キャンプ2025- 女子STEAM生徒の未来チャレンジ』

(お茶の水女子大学×東京科学大学×奈良女子大学)

- ・全国の学校から選抜された女子生徒50名によるプログラム。
- ・本校女子生徒が1名参加(8月)。
- ・3日間の実習・講義・ディスカッションに参加。



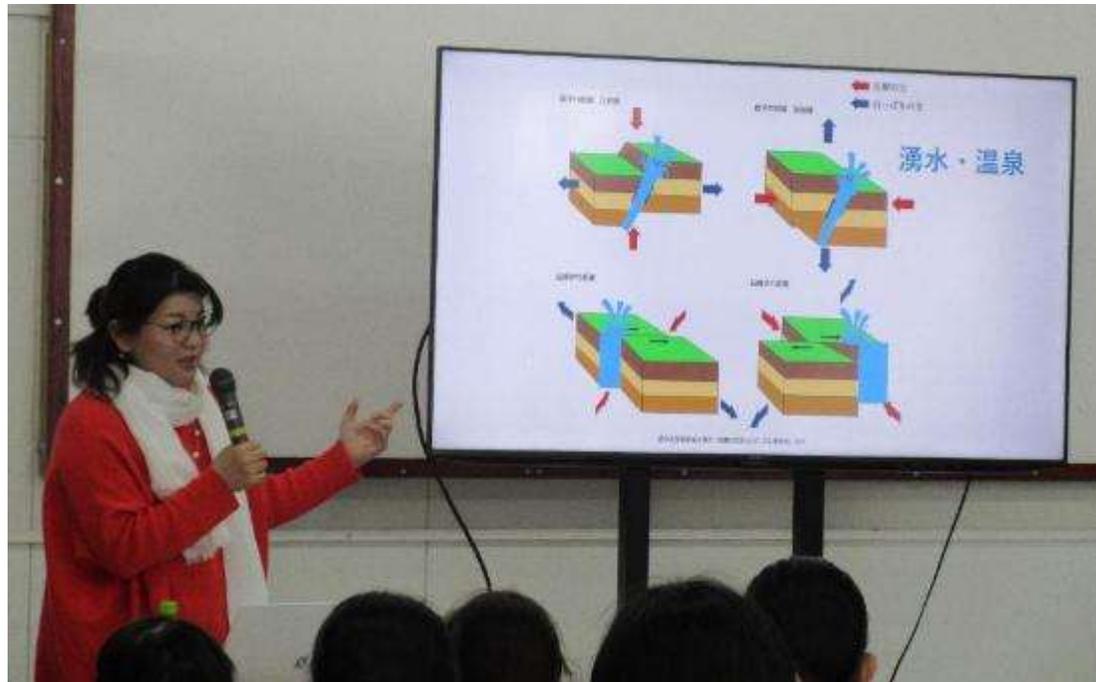
【「みらいの扉キャンプ」の様子】



【体験プレゼンの様子】¹²

[Ⅱ部]小学5・6年、中学校各クラスでの女性研究者による講義

- 各クラスで、女性研究者による講義を実施
- **生徒による研究プレゼン**と指導助言も実施
- 講演内容は「研究者を志した経緯」や「研究内容」など



【小学生への講義の様子】



【中学生への講義の様子】

[Ⅲ部]高1女子、小中希望者との小グループでのサイエンストーク

- ・講師(女性研究者)1名に対し、女子生徒3～5名の少人数規模の座談会形式で実施。

講師の学部・学科・研究内容の紹介



生徒の希望調査



研究内容の調査と
質問事項の考察



【サイエンストークの様子】

実施前・実施後アンケートの結果比較(R07.12実施)

理系の研究者に明るいイメージはあるか。

(肯定的評価[とてもそう思う・そう思う]の割合)

	小6	中1	中2	中3	高1
実施前	81.3%	57.1%	39.5%	76.3%	56.6%
実施後	97.9%	95.5%	100.0%	92.6%	100.0%

考察

- 全学年、理系研究者に対しての偏ったイメージが是正された。
- 理系進学に対して前向きなイメージを持ち、進路選択の一助となることができた。

〔文理選択希望について→高1女子の71.4%が理系と回答〕

実施前アンケートにおける自由記述回答(一部)

(明るくないと思う理由)

- ・**ずっと研究室にこもって研究をしているイメージ(多数)**
- ・収入や生活が安定していなさそう
- ・金銭面で研究者への支援が充実していない
- ・どのようなことをしているか分からない
- ・一人で黙々と研究していて、人と関わることが少なそう

(明るいと思う理由)

- ・**インタビューをしたときに、とても明るく話しやすかった(多数)**
- ・色々な人のために頑張っているから
- ・好きなことに熱中している

実施後アンケートにおける自由記述回答(一部)

- ・先生方が、ご自身の研究内容を生き生きとした表情で説明されているのを見て、**とても明るいイメージを持つことができた。**
- ・理系に進学することで、文系よりも将来の仕事・就職の幅がより一層広がり、**可能性も広がるということを知ることができた。**
- ・**科学的な視点は女性にも必要だ**と思うし、理系進学でその視点を得ることで、将来のキャリアにもつながるのでは、と感じた。
- ・今日の講演のなかで、**性別に関係なく、自分の好きなことを頑張れば良い**と聞き、納得した。自分の考えをもつことが大切だと思った。
- ・**中学校時代からSCPインタビュー等で話す**ことで、自分の考えを持って世の中に貢献する姿勢が印象に残り、**明るくたくましく思えた。**

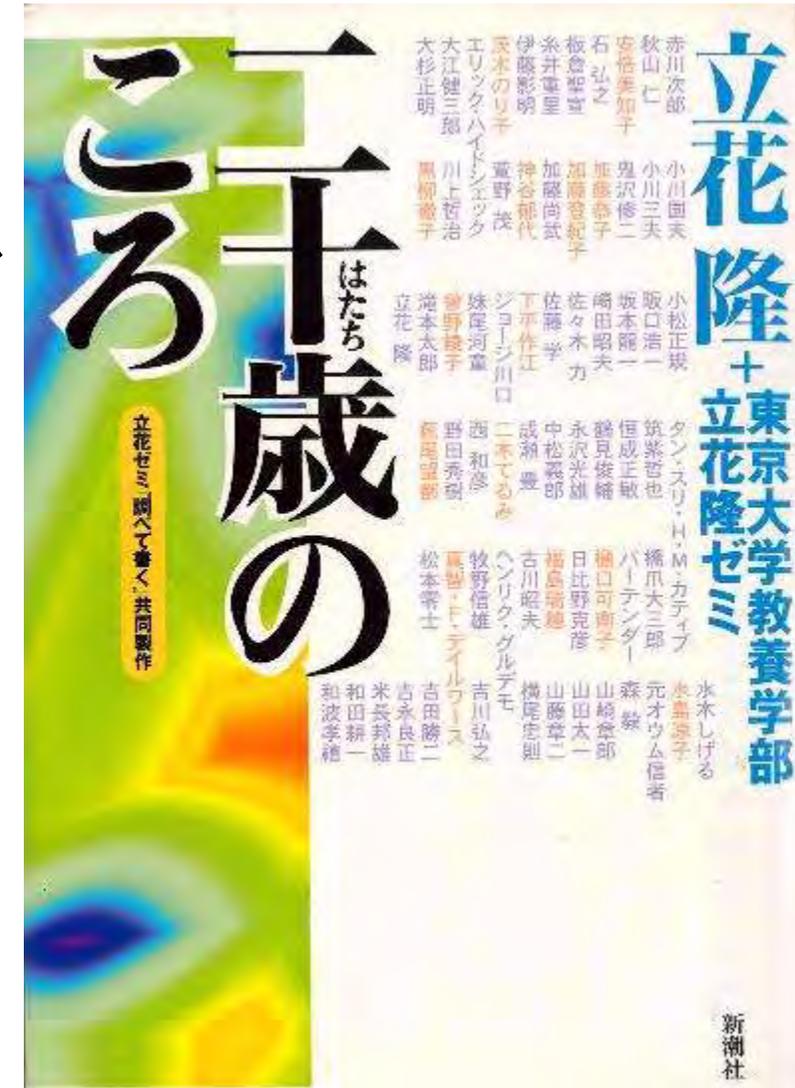
学びのシステムにおける「+α」の効果の発見

実施前 アンケート	理系の研究者に明るいイメージはあるか				
	小6	中1	中2	中3	高1
	81.3%	57.1%	39.5%	76.3%	56.6%
	(明るいと思う理由) インタビューをしたときに、とても明るく話しやすかった(多数)				
実施後 アンケート	中学校時代からSCPインタビュー等で話すことで、自分の考えを持って世の中に貢献する姿勢が印象に残り、明るくたくましく思えた。				

➡中学生が研究者へインタビュー活動を行う「SCP(サイエンス・コミュニケーション・プログラム)」の効果が表れている

SCP(サイエンス・コミュニケーション・プログラム)

- 理系研究者との対話を通して、既存の知識と専門的な内容との接続を図っていくことを目標としている。
- ポスターやスライド発表原稿の作成を通して、科学的な知識体系を記述する。
- ➡対話という柔軟性を持った活動によって、教育課程で高度な内容を学ばない中学生でも科学的な内容へのアプローチが可能となる。



SCP(サイエンス・コミュニケーション・プログラム)

○インタビューの対象

中1:本校職員やSSHで活躍する高校生

中2:池田学園同窓生(理系の職種が中心)

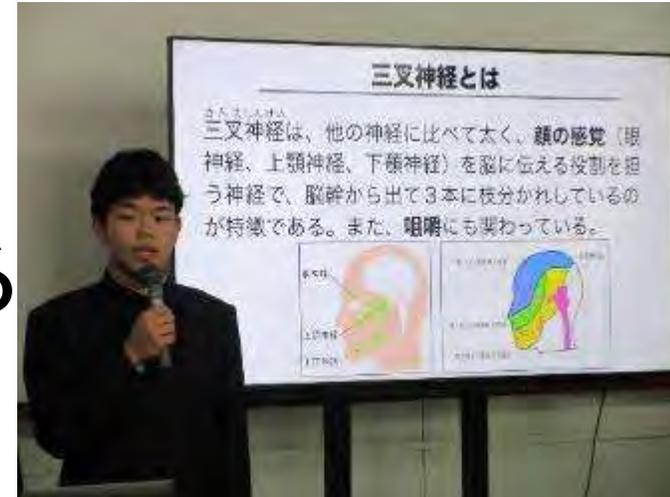
中3:理系の大学研究者

→段階的にインタビュー内容の専門性を高める

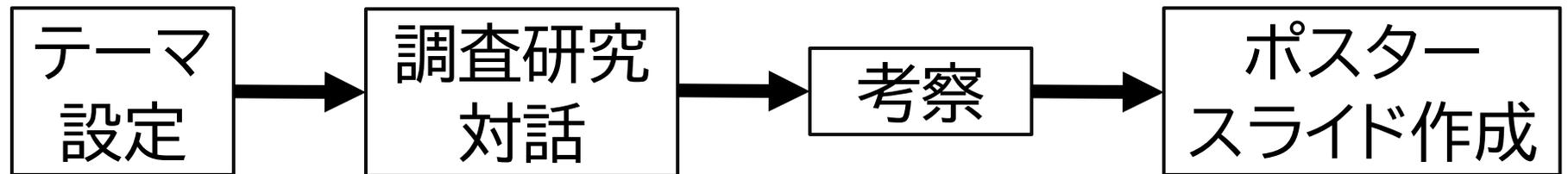
○インタビュー時のテーマ(質問)は1つ

テーマとの関連性が深い一つの質問を起点にして関連する内容について深く掘り下げる。

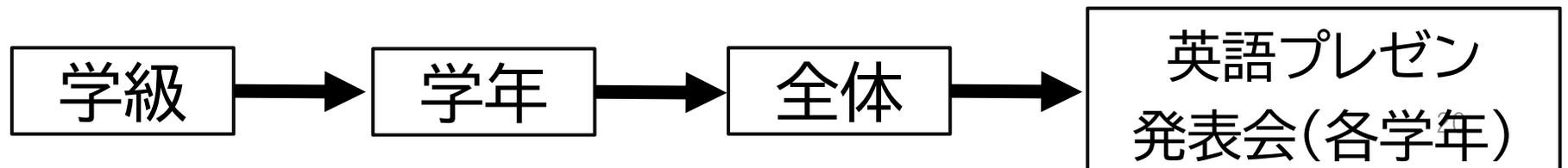
【多様な研究を知る(中1-3)】



〔課題研究の流れ〕



〔プレゼンの流れ〕



S C P 活動の様子

【インタビュー・発表会の様子】



【中学生が作成したポスター】

バイオ燃料を普及させるには

3年 日根 心 輝

テーマの概要

本下生は、バイオ燃料の原材料である植物油の組み合わせによる二酸化炭素排出量の違いについて研究されている。

先生の研究をさらに世の中の人々に知ってもらうため、どうすればバイオ燃料の普及率を上げることができるかをテーマにした。

バイオ燃料とは

バイオマス
食糧から生まれた、再生可能な有機物の資源。
バイオ燃料
バイオマスを利用して製造される燃料。

バイオ燃料の種類

- ・バイオエタノール
- ・バイオガス
- ・バイオジェット
- ・バイオディーゼル

※木下生はバイオディーゼルの制作を通して研究されている。

バイオディーゼルとは
植物油や廃食用油などから製造される燃料。

使用されているもの
トラック、自衛隊トラック、ボイラーなど

メリット

- ・二酸化炭素の排出量がゼロカウントになる
- 原材料の使用廃油に含まれる二酸化炭素は、食用油の原材料である植物が光合成によって吸収したもので、よって、使用することによって排出される二酸化炭素は地球環境中の二酸化炭素を増加させないということ。
- ・保管が可能
- ・排気ガス中の有害物質を削減 など

デメリット

- ・コストがかかる
- バイオ燃料は新しい燃料のため、インフラが確立されていないものが多く、製造工程が複雑であるため。
- ・食料と競合する
- ・資源不足に陥る可能性がある
- ・森林を伐採して結果的に環境を破壊してしまうことがある

先進国と発展途上国との比較

バイオ燃料を普及させるにあたって、原材料/私たちの食糧と争っている、ということにも注目しなければなりません。それを克服したいという思いがきっかけにプッシュしました。

【ブラジル】
バイオ燃料の原材料としてトウモロコシを使用していたが、家畜への飼料供給が不足し、牛乳と豚肉が値上がりしたことで世界中の人々に影響を与えた。

このように、先進国によるバイオ燃料の取り分けが個人になると発展途上国に負の影響を与えるという問題がある。

希望

私たちが直接的にバイオ燃料の普及促進をすることは難しい。だが、今自分たちにできることを少しずつやっていきたい。

→ 現在の地球の問題について意識する。
→ 今できることを続けることで、バイオ燃料の普及と地球の温暖化にある環境問題の解決策を探る。

先生の経歴

所属
群馬県立女子大学工学部 理工学研究所
工学専攻 機械工学プログラム 助教

経歴
1995年 3月 群馬県立女子大学 卒業
1996年 3月 群馬県立女子大学 工学部 工学専攻 卒業
1998年 3月 群馬県立女子大学 工学部 工学専攻 卒業
2012年 1月 群馬県立女子大学 工学部 助教

参考文献

バイオ燃料とCO2削減のメリットを分かりやすく解説したマークシート
燃料の種類がわかるバイオ燃料の作り方
SAFの原料EMSA
バイオマスとは？
<https://www.kanagawa-u.ac.jp/~s2024/>

まとめ

バイオ燃料の普及には、コスト削減と食料との競合を克服することが重要である。

インタビューを行った外部講師

<SSHを経験したOB・OG(オンライン)>

濱村浩孝	日立ハイテク
中野正理	株式会社ヤクルト本社開発部 開発一課
二木かおり	千葉大学大学院理学研究院 融合理工学府 准教授
信國浩文	神戸天然物化学株式会社 機能材料事業部 機能材料第二部 出雲第二工場
川村英樹	鹿児島大学医学部 准教授
井上尊寛	法政大学スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 准教授
栗野大志	本田技研工業

<理系研究者(対面)>

秦浩起	鹿児島大学大学院理工学研究科(理学系) 理学専攻 物理・宇宙プログラム 准教授
木下英二	鹿児島大学大学院理工学研究科(工学系) 工学専攻 機械工学プログラム 教授
中川亜紀治	鹿児島大学大学院理工学研究科(理学系) 理学専攻 物理・宇宙プログラム助教
加藤太一郎	鹿児島大学大学院理工学研究科 理学専攻 化学プログラム准教授
川端訓代	鹿児島大学総合科学域総合教育学系 総合教育機構 共通教育センター 初年次教育・教養教育部門 准教授
内海俊樹	鹿児島大学理学部 名誉教授
福留光拳	鹿児島大学理工学域理学系生物学プログラム 助教
岡村浩昭	鹿児島大学理工学域理学系 理工学研究科(理学系) 理学専攻 化学プログラム 教授
九町健一	鹿児島大学理工学域理学系 理工学研究科(理学系) 理学専攻 生物学プログラム教授

池田 夢の翼プロジェクト

文理
選択

12
月

女性研究者育成フォーラム
サイエンストーク (高1、中全、小5・6)

中学校SCP

〔サイエンス コミュニケーション プログラム〕

多くの研究者や
高校生との対話

多くの研究内容
の認知

サイエンスコミュニケーションモデル

女子生徒
理系選択
率(高2、%)

R4 50.0

R5 53.6

R6 71.4

R7 57.1

R8 71.4

※R8は現高1の
データ

多様なサイエンス交流～ IKEDA Science Day

- ・小5・6、中1～3、高1・2が参加。児童生徒が校種の垣根を越えて行う科学交流。12月実施。
- ・R6は女性研究者による講演と、代表児童生徒による研究プレゼンを実施。R7は全員でのポスター発表交流を実施。



【小学生の発表を聞く高校生】



【中学生の発表を聞く小学生】



【高校生の発表を聞く小学生】

多様なサイエンス交流

～県SSH交流フェスタ幹事校として若手女性研究者の講師招聘

- ・子育てと研究を両立し、鹿児島大学で社会人ドクターを取得した若手女性研究者を招聘(R6)

演題「私の人生の選択

～“研究”を仕事にする～」

- ・講演の様子はYouTubeで県内一般校、全国SSH校へ配信
→女性研究者育成に関する取り組みの
県全体や全国への普及



【講演の様子】

多様なサイエンス交流

～富士見丘高校(東京中高一貫女子校)とのSSH・WWL合同研修

- ・富士見丘高校と本校は、緊密な連携を結び、令和3年度より本校と東京にて年2回の課題研究プレゼン交流研修を実施。(今年5回目)
- ・10月には富士見丘高校の生徒約200人が本校に3日間来校
- ・自然科学と人文社会科学の文理融合の学びを実現し、年々レベルが上がっている。



多様なサイエンス交流

～海外の学校との国際交流 ※半数以上が海外女子

【これまでの交流対象校】

- ・セントヨセフ高校(シンガポール) 
- ・ラッパヤルヴィ高校(フィンランド) 
- ・ヴィンペリ高校(フィンランド) 
- ・アラヤルヴィ高校(フィンランド) 
- ・永豊高校(台湾) 
- ・インドネシア8高校(インドネシア) 

※2020年から昨年度末まで**5年間**で**45回**の
OL科学交流。毎回多くの希望者が参加。

リアル交流含む



R06-07

マレーシア プトラ大学
との国際共同研究・研修

多様なサイエンス交流 ～グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”(GSA) 九州南端から世界へ—事業普及と科学人材育成HUBの構築—

- 国内外小中高生対象の国際科学研究コンテスト
(千葉工業大学と共催)
- 来場、オンライン、日本語、英語による
ハイブリッド形式 ※全国配信
- 予選審査と決勝審査(ステージ)+講演会
- 今年度第8回 96チーム参加(含国外3カ国8校)
- 累計参加生徒数は1300名以上



鹿児島県 Ⅳ期 発表会
学校法人池田学園 池田中学・高等学校

一般校が参加し、科学探究への夢の普及を目指す国際科学コンテスト
グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”(GSA) —多くの指定校—

鹿児島から全国の児童・生徒の科学探究への意欲を普及・拡大するねらいで、平成30年度から国際科学コンテスト(GSA)を継続開催しています。11月初旬に、国内外の高校生を中心に最大90チームが覇を競い、来場・オンライン・日本語・英語のハイブリッド形式で実施。研究者22人により予選審査・決勝審査が行われ、その間、講演会も催します。共催の千葉工業大学からの協力もあり、多数の企業・大学の協賛も受け、文部科学大臣賞以下、多様な賞を設けています。令和6年に累積の発表者が千人を超えました。今後も満足度を高め、日本を代表する大会となるよう努めます。



第7回受賞者記念撮影

参加者アンケート	
研究の役に立った	96.6%
研究の質は高かった	97.7%

→
R7SSH
パンフレット
に掲載

多様なサイエンス交流

～グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”(GSA)

九州南端から世界へ—事業普及と科学人材育成HUBの構築—

・登録チーム数の累計数(全8回)

SSH校	一般校	小中学校	海外校
366	39	108	53

→全国SSH校、一般校、国内外連携校、県内小中高、
関係機関等へ発信・HPの構築

※地域の小中:県児童生徒理科展受賞者全員へ“お誘い状”を郵送

・多くの科学技術系企業・大学等が協賛

→株式会社ソラシドエア、大塚製薬

株式会社新日本科学、九州電力、東海大学

東京農業大学、高校生新聞など多数



データのまとめ

1 本校女子生徒の理系選択・理系進学割合の推移

	女子生徒理系 選択率平均(※1)	女子生徒理系 進学率平均(※2)
SSH指定第Ⅲ期 (2017-2021)	46.0%	33.1%
SSH指定第Ⅳ期 (2022-2025)	56.8%	43.3%

本校女子生徒の理工系 (医歯薬系以外)への進学率(※3)	
2022	16.7%
2023	25.0%
2024	35.7%

※1(女子生徒理系選択者数)÷(女子生徒在籍者数)
の値の5年間の平均値

※2(女子生徒理系進学者数)÷(女子生徒在籍者数)
の値の4年間の平均値

※3(医歯薬系以外への女子進学者数)÷(女子生徒在籍者数)

2 理数系科目に対する意識

※対象:小5~高3女子児童生徒、単位:%

※数値は、肯定的評価(「得意」「やや得意」/「好き」「やや好き」)の割合の合計

	小学校[小5-6]	中学校[中1-3]	高校[高1-3]
数学(算数)が得意	48.8	56.4	37.0
数学(算数)が好き	53.3	78.4	61.1
理科が得意	70.7	36.8	37.0
理科が好き	66.7	65.8	55.6

「得意」の割合は下がっても、「好き」の割合は半数以上で推移

3 理系に進学しようと考えている人の割合

※対象:小5~高3女子児童生徒、単位:%

	小学校 [小5-6]	中学校 [中1-3]	高校 [高1-3]
理系	34.9	34.2	68.5
文系	41.9	26.3	27.8
分からない	23.3	36.8	1.9
その他	0.0	2.6	1.9

小→中→高と「理系を選択する割合」は上昇

4 理系に決定した理由

※対象:小5～高3女子児童生徒、単位:%

	小学校[小5-6]	中学校[中1-3]	高校[高1-3]
志望する学科・学部	13.3	20.0	18.9
志望する職業	33.3	46.7	56.8
理数系が好き・得意	13.3	6.7	8.1
文系が苦手	6.7	6.7	2.7
漠然とした憧れ	13.3	6.7	2.7
家族の助言	6.7	13.3	8.1

志望学部・職業から理系を選択する割合が増加
→SSHの取り組みにより、「理系に対する具体的なイメージ」を持ったうえでの進路選択へ

池田 夢の翼プロジェクト [理系女性育成PG]

<学年系統>

高校SSH 年縦割り

学会参加、研究者指導、産学官公民連携

<高校 年間時系列>

生徒研究発表会[3月]

英語プレゼン発表会[2月]

IKEDA Science Day[12月]

グローバルサイエンティストアワード
“夢の翼”[11月]

富士見丘高校合同研修[10月]

中間発表審査会[9月]

富士見丘高校プレゼン交流[6月]

テーマ検討会Ⅱ[5月]

テーマ検討会Ⅰ[3月]

探究力を広げる
国内外大会参加
海外サイエンス交流・共同研究
(中学生も参加)

文理選択

12月

女性研究者育成フォーラム
サイエンストーク
(高1、中全、小5・6)

探究力を深める
校内発表会、英語プレゼン発表会
小学校へのプレゼン披露
学校見学会でのプレゼン披露

中学SSH(SCP) グループ研究
多様な研究者とのコミュニケーション
産学官フィールドワーク、自由研究

探究力をつかむ
校内発表会
学校見学会でのプレゼン披露

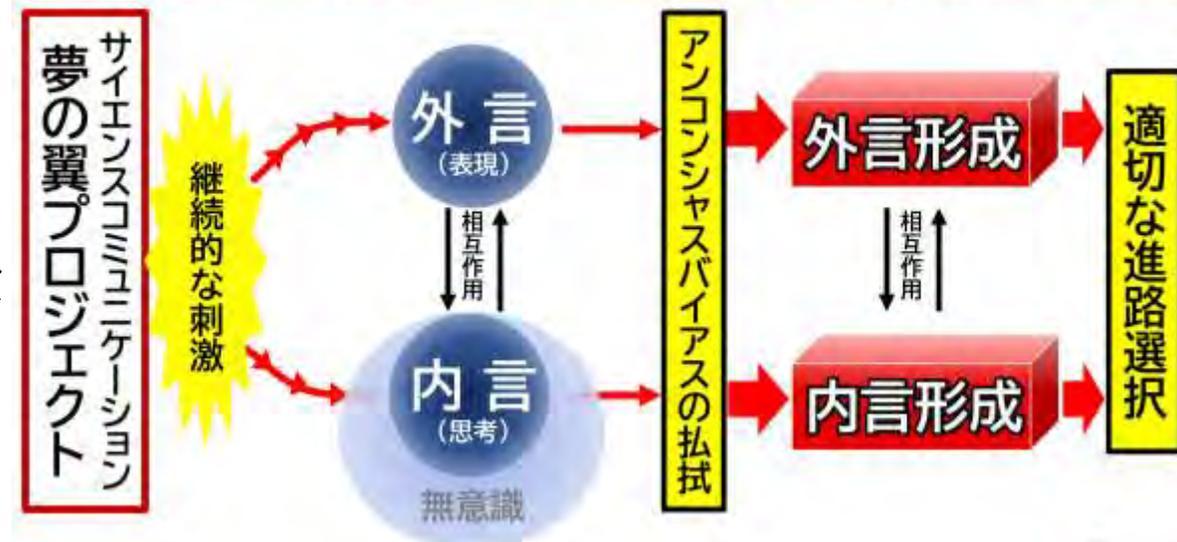
小学校SSH 自由研究
中高のアウトリーチ
(教室でのプレゼン発表、実験教室etc)

アンコンシャスバイアスの払拭に関する言語教育学的総括

- 1 言語教育学的に、人は言語行動主体として、思考や行動の選択すると仮定される。
- 2 言語の領域には、発せられる言語(外言とする)だけでなく、外化されずに漠然とした想のままの言語(内言とする)もあると仮定される。
- 3 アンコンシャスバイアスを払拭するには、言語を外化する実の場を通じて、無意識下の内言に繰り返し働きかける必要がある。
- 4 単発の講義やイベントによる働きかけは、一過性の外言形成を促すが、すぐにバイアスに満ちた内言が働き出してもとに戻る。
- 5 夢の翼プロジェクトは、より自然な対話や座談の形式で、継続的に内言(アンコンシャスバイアス)に働き、言語行動主体として適切な選択が実現したと考えられる。

(参考文献:時枝 誠記、田近 洵一、ヴィゴツキーの著作等)

言語行動主体としての外言・内言形成モデル



話題 3

まとめと今後の展望

※課題:プロジェクトの評価と普及

大学研究者の皆様の御協力・御指導
をよろしく申し上げます。

ご清聴、有難うございました。

2～3月 授業と課題研究英語発表会のオンライン公開 全国関係校に送信します。

1 合科探究授業の公開(授業改善総括) 2月24日(火)QR→



2 生徒研究発表会(国際化総括) 3月10日(火)※HPをご覧ください。
オールイングリッシュのプレゼン発表会

3 第9回グローバルサイエンティストアワード“夢の翼”
11月8日(日)開催 ※6月～7月頃、HPをご覧ください。

メールアドレス

山崎 yamasaki@ikeda-gakuen.ed.jp

小田 oda@ikeda-gakuen.ed.jp 2